



放射線のリスクとベネフィット～福島復興11年の変遷～



令和5年8月5日(土)

京都教育大学

附属京都小中学校・教頭

大学院連合教職実践研究科・准教授

野ヶ山 康弘





東日本大震災から4年 ～今の福島は？～



問題の所在

東日本大震災による福島第一原子力発電所の爆発事故以来、
小中学生に対する「放射線の正しい理解」を推進する機運が高まる。

現状としては

○津波の被害や復興状況

テレビで報道される情報は知っている。
原発事故による福島の現状はほとんど
知らない。



復興が順調に進んでいると誤解



副読本が各校に配られ、放射線の授業が行われるようになるが・・・

○理科の授業では小学高学年と中学2, 3生で表面的に触れるだけ

・はかるくんを使った放射線測定

・霧箱を使った放射線の観察

○副読本を配付するだけ



課題としては

○問題意識が低い(他人事に感じている)

○放射線に対する理解が不十分(偏見や風評につながっている)



課題を克服するために

○未来を築いていく子どもたちの今日的課題の理解, 解決しようとする意識の高まり
(科学的リテラシーの育成が不可欠)



○発達の段階に応じた系統的なカリキュラムの必要性

科学的リテラシーの捉え方

本研究における科学的リテラシー（平成23年度版 科学技術白書，文部科学省）

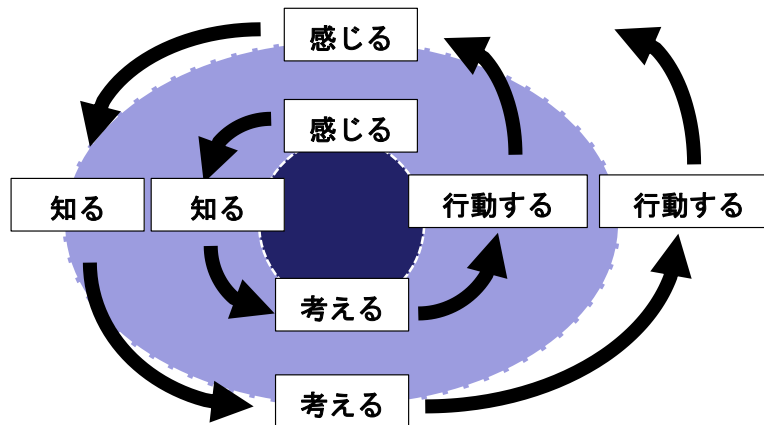
「疑問を認識し，新しい知識を獲得し，科学的な事象を説明し，

科学に関する諸問題について証拠に基づいた結論を導き出すための科学的知識とその活用する能力」



科学的リテラシーを育てるために必要な4つの力

- ① 疑問を認識する＝「感じる」
- ② 新しい知識を獲得する＝「知る」
- ③ 科学的な事象を説明する＝「考える」
- ④ 科学的知識を活用する＝「行動する」



科学的リテラシーを育てる手段

①授業カリキュラムと授業教材の工夫

自然や社会の様々な事象を科学的な見方で捉え、「中立な立場とは何か」、「確かな事実を知るとは何か」、「活用するとは何か」を学ばせる機会を設定した。

- ・データを集めること、選択すること(嘘っぽいデータの取捨選択)
- ・データの分析
- ・事象の理解
- ・上記3つよる活用

※本研究で考える「中立的な立場」の定義

中学生であるという発達の段階を考慮し、「中立的な立場」とはどのようなものかを考える力とした。

②授業展開の工夫

認知促進プログラムの授業構成を活用する。

③教材として扱う今日的課題

福島第一原子力発電所の事故による放射線の影響を通じた、正しい放射線理解(メリットとデメリット)

実践研究例(概要)

新教科「サイエンス」指導計画(10時間扱い)…7年生

- 震災1年半後の福島について 【①感じる】 ← 教材1
- 放射線の性質「観察・実験」 【②知る】 ← 教材4
 - ・線量計を使った放射線量の測定(自然放射線・線源からの放射線)
 - ・放射線の遮蔽実験
- 今の福島県飯舘村について 【③考える】 ← 教材2, 3
 - ・活動1「もし、京都が飯舘村と同じ状況だったら住みたいか、話し合おう」
 - ・活動2「飯舘村は2年後の帰還を目指しているが可能だろうか？」
 - ・活動3「福島の同世代のメッセージを聞こう」
- 特別授業①(福島大学岡田教授) 【④行動する】
 - ・震災時の福島について

新教科「サイエンス」指導計画(10時間扱い)…8年生

- 特別授業②(福島大学岡田教授) 【①感じる, ②知る】
 - ・現在の福島について
 - ・内部被ばくと外部被ばくについて
- 食生活について【③考える】
 - ・芽止めじゃがいも
 - ・福島県の野菜

教材

- 教材1: 震災1年半後の南相馬市, 飯舘村の現地視察で得られた情報(平成24年8月)
- 教材2: 現在の飯舘村の現地視察で得られた情報(平成27年10月)
- 教材3: 福島県教育委員会が制作した放射線教育のDVD
- 教材4: 「放射線の正しい理解のために」副読本(文科省)

福島豊かな自然



東日本大震災で福島で何が起こっていたのか？



揺れによる被害



原発事故による被害



津波による被害

阪神淡路大震災と東日本大震災との大きな違いは？

- ・断層型とプレート型
- ・津波と火災
- ・大都市と地方
- ・原発事故

放射線って何だろう？



ユリの花の水の通り道
を放射線を使って調べ
たもの

放射線って何だろう？

ものを通りぬけるはたらき



病気の
診断や治療
・レントゲン

ものを強くするはたらき

・自動車のタイヤ

細菌を退治するはたらき

・医療器具

調査や研究

・化石の年代

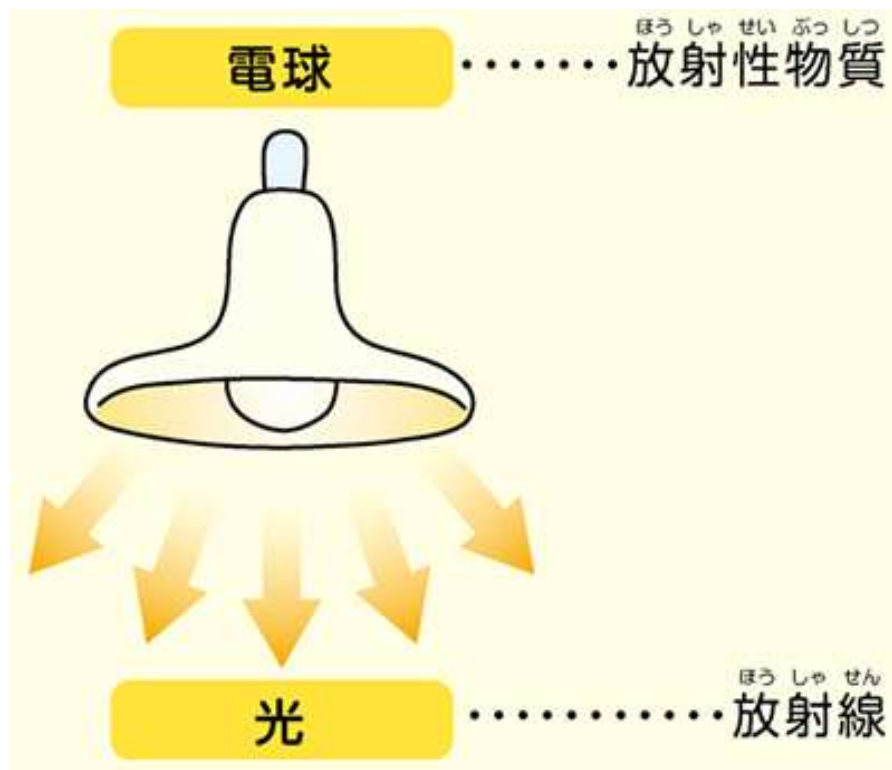
放射線



わたしたちの
生活を支えている

放射線って何だろう？

電球に例えると・・・



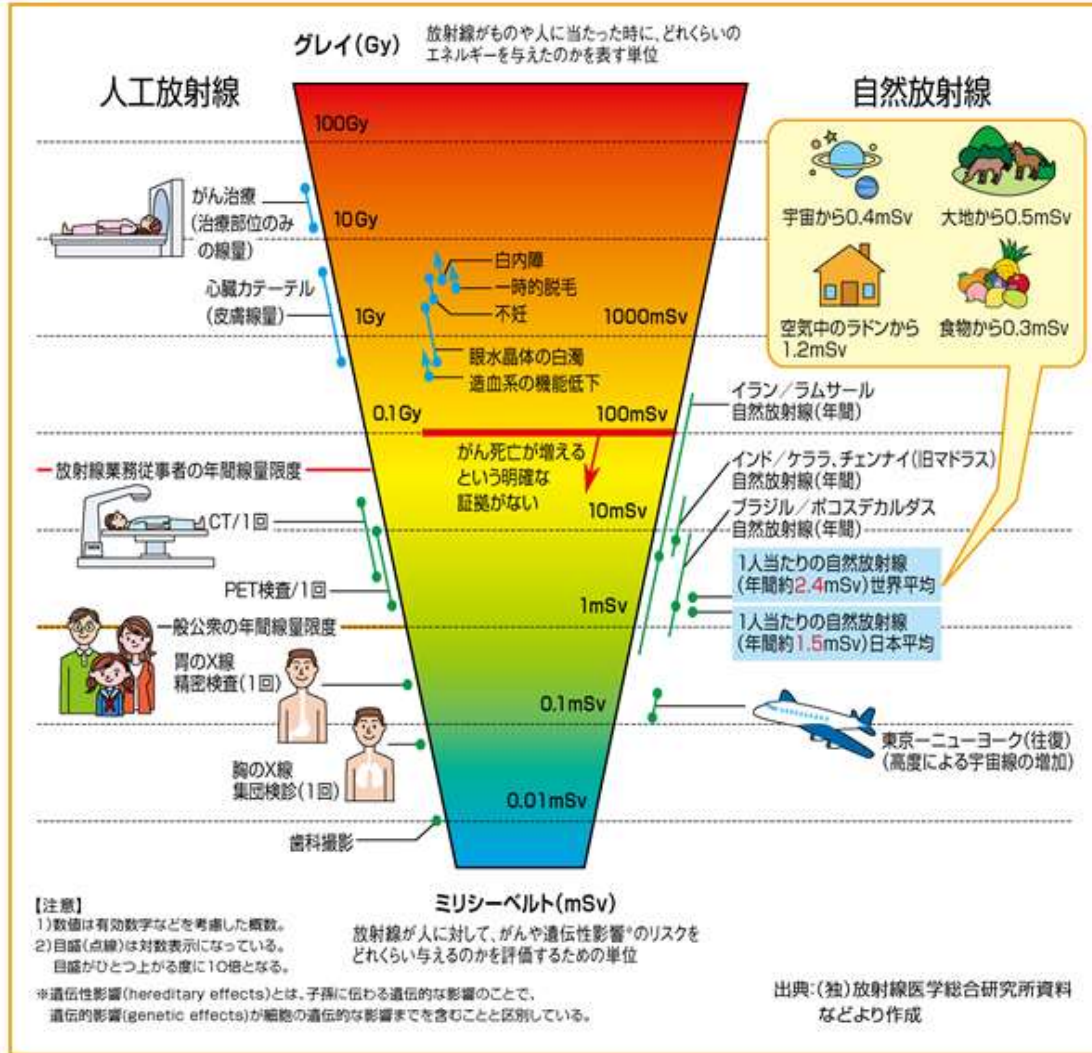
放射性物質の放射線の量は、時間がたてば少しずつ少なくなる。

放射性物質から遠くはなれると、放射線の量が少しずつ少なくなる。

たくさん放射線を浴びると健康に害を与え、命に関わることもある。

放射線って何だろう？

◆身の回りの放射線被ばく



放射性物質	放出される放射線*	半減期
トリウム232	α 、 β 、 γ	141億年
ウラン238	α 、 β 、 γ	45億年
カリウム40	β 、 γ	13億年
炭素14	β	5730年
セシウム137	β 、 γ	30年
ストロンチウム90	β	28.7年
コバルト60	β 、 γ	5.3年
セシウム134	β 、 γ	2.1年
ヨウ素131	β 、 γ	8日
ラドン220	α 、 γ	55.6秒

*壊変生成物(原子核が放射線を出して別の原子核になったもの)からの放射線を含む

出典:(社)日本アイントーフ協会「アイントーフ手帳10版」



放射線を体験してみよう

◆放射線から身を守る方法



放射性物質から距離をとる



放射線を受ける時間を短くする



コンクリートなどの建物の中に入る
(木造よりコンクリートの方が放射線を通しません)

今日、紹介する福島は？



2012年8月 飯館村(震災から1年半後)



人がいない！なぜ？

放射線量

75
マイクロシーベルト/時間

2012/08/23

京都の6倍の放射線量

2012年8月 飯舘村での除染作業

何をしているのだろうか？



汚染された土を取り除いている

どのくらい放射線量が下がるのか？



汚染された土



取り除いた土

放射線量が5分の1に減った

2012年8月 南相馬市 汚染土はどこへ？

汚染された土はどこにもっていくのだろうか？



深さ2mの穴をほってうめている

2015年10月 飯舘村(震災から4年半後)



村内のいたるところで除染作業が進められ
行き場のない多量の汚染土が積まれていた



2015年10 飯館村村内の放射線量

飯館村村内の空間放射線量の測定値 2015年10月9日

年間放射線量（予測） 6 mSv/y

一般的な年間放射線量 1 mSv/y
（1時間当りに換算すると 0.12 μSv/h）



変容の調査方法

選択式のアンケート

- 内容: 福島県が小中学生を対象に行った「放射線に対する意識調査」と同じものを実施
- 実施時期: 放射線の授業を実施する前(11月), 7年時実施後(2月), 8年時実施後(7月)
- 対象: 本校生徒(88名: 7年から同一学年を追跡調査)

ア: 放射線は, 世界中どこにでもある。

イ: 放射線は, 原子力発電所の事故の前には, 私たちの身の回りに存在していなかった。

ウ: 人が放射線をあびると, 放射線を出す能力をもってしまう。

エ: 放射線は, 人の体に害を与えるときがある。

オ: 放射線は, 病気を治すことなどに利用されている。

カ: 放射線, 放射性物質, 放射能の違いを説明できますか。

キ: 放射線の種類や性質について説明できますか。

ク: 除染の目的を説明できますか。

ケ: 放射線量が多いとき, 放射線から身を守る方法を説明できますか。

コ: 内部被ばくと外部被ばくの違いを説明できますか。

実践研究例(震災1年半後の福島について)

提示した教材内容(福島第1原発から20km)

- ・南相馬市原町(駅前商店街)の様子
- ・南相馬市小高区(海岸地域)の様子
- ・飯館村(役場周辺)の様子

生徒の反応

- ・津波の威力に驚いた
- ・地震の大きさを知った
- ・時間が止まってしまっていることに驚いた
- ・知っている事実と違っていた

東日本大震災で福島で何が起こっていたのか？



揺れによる被害

原発事故による被害

津波による被害

阪神淡路大震災と東日本大震災との大きな違いは？

- ・断層型とプレート型
- ・津波と火災
- ・大都市と地方
- ・原発事故



教材の効果「感じる」

- ・テレビ, 新聞, ネットなどから得られた情報がすべてであると感じていた。
- ・生徒自身が思っていたことと事実の隔たりに気づくことができた。
- ・放射線に関心が向くようになった。
- ・事実を知ることの必要性に気づいた。

実践研究例(今の福島県飯舘村について)

活動1「もし、京都が飯舘村と同じ状況だったら住みたいか、話し合おう」

1	<p>・家のごとく私たちの身近な所で除染された土が山のふもとにあるのは危険だし、体に害が及ぶからこわいから。</p>	2	<p>・放射線が危ないから。</p>	3	<p>・放射線が危険だから、住むのは危険だし、体に害が及ぶからこわいから。</p>
4	<p>・放射線が危険だから、住むのは危険だし、体に害が及ぶからこわいから。</p>	5	<p>△ 放射線が危険だから、住むのは危険だし、体に害が及ぶからこわいから。</p>	6	<p>住み続けたいけれど体に害があるのは危険だし、体に害が及ぶからこわいから。</p>
7	<p>放射線が危険だから、住むのは危険だし、体に害が及ぶからこわいから。</p>	8	<p>放射線が危険だから、住むのは危険だし、体に害が及ぶからこわいから。</p>		
9	<p>知家飲いけど、住みたくても住めないから♡</p>	#	<p>・放射線が危険だから、住むのは危険だし、体に害が及ぶからこわいから。</p>		



教材の効果「考える」

- これまでの学習で得られた放射線の知識を基に、「本当は住みたいが住みたくない」と答えた
- 放射線の負の面が強く、感情的な意見
- 第三者的な立場で実感のない発言が多く聞かれた

実践研究例(今の福島県飯舘村について)

活動2「飯舘村は2年後の帰還を目指しているが可能だろうか？」



教材の効果「考える」

- これまでの学習で得られた放射線の知識を基にした意見
 - ・放射線を遠ざけるために深く穴を掘る
 - ・厚い鉛の入れ物の中に保管する
 - ・全国に分担して、放射線の量を減らす
- 第三者的な立場で実感身のない発言や意見
- 表面的な解決策ばかりで、根本的な解決策になっていない

実践研究例(今の福島県飯舘村について)

活動3「福島の同世代のメッセージを聞こう」

1	<p>今、福島の同世代のメッセージを聞こう。この活動を通して、福島の同世代のメッセージを聞き、自分自身の問題として真剣に話し合う場面が見られた。</p>	2	<p>・こわい・危険 放射線</p>	3	<p>「今の福島は放射線が怖い。怖いから、帰りたい。帰りたい。帰りたい。」</p>	4	<p>「福島の同世代のメッセージを聞き、自分自身の問題として真剣に話し合う場面が見られた。」</p>	5	<p>「福島の同世代のメッセージを聞き、自分自身の問題として真剣に話し合う場面が見られた。」</p>
6	<p>考えている事が全く違う。 どこかで他人事のように思っている。 被害がある。 被害にあふた人ばかり、あんなに現 実はある。 も、と 被災した人の気持ちを慮るべき</p>	7	<p>「福島の同世代のメッセージを聞き、自分自身の問題として真剣に話し合う場面が見られた。」</p>	8	<p>被災した人自身を聞いて、自分自身の問題として真剣に話し合う場面が見られた。</p>	9	<p>ここはまた福島県飯舘村にはあるのに 何かを聞かずに 思っている!!</p>	10	<p>「放射線は危険だから、帰りたい。」 ⇒ じゃあ(に付き合)たいからか 帰りたいからか</p>



教材の効果 「考える」

- 「他人事ではない」という声が多く聞かれた
- 自分自身の問題として真剣に話し合う場面が見られた
- 答えがない課題であることに気づき、「どうすべきか」と悩んでいる姿が見られた

実践研究例(特別授業)

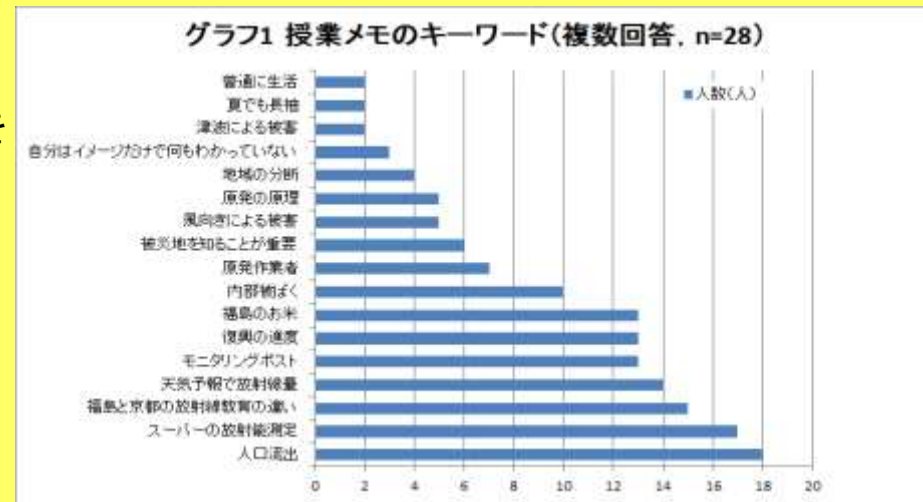
福島大学 岡田先生による授業

○1クラスの生徒たちの授業メモのキーワードを抽出した結果(グラフ1)

- ・人口流出→生徒の考えとの隔たり
- ・食と健康の安全→農作物に対する偏見
- ・放射線教育の違い→生徒の関心



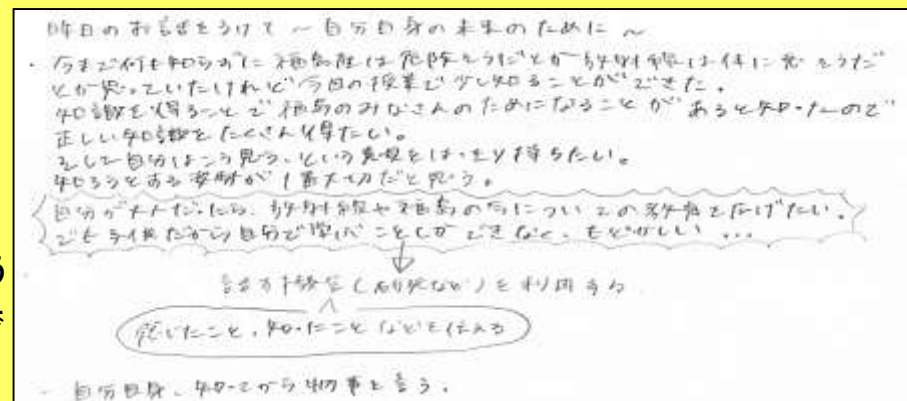
知らない事実が多いという実感



授業の効果「行動する」

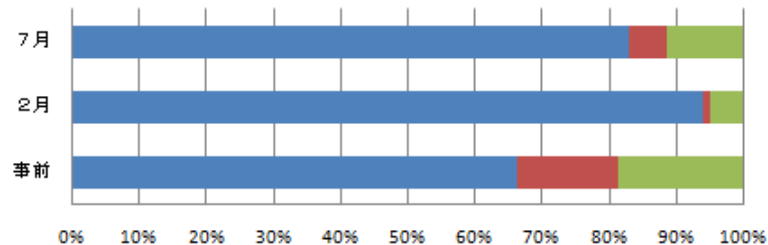
○高校生のメッセージを聞いて「他人事ではない」
感じていた生徒が、自分自身の問題として真剣に話し合う場面が見られた。

○資料1のように、答えがない課題に気づき、「どうすべきか」、「自分にできることは何か」と悩んでいる姿が見られた。



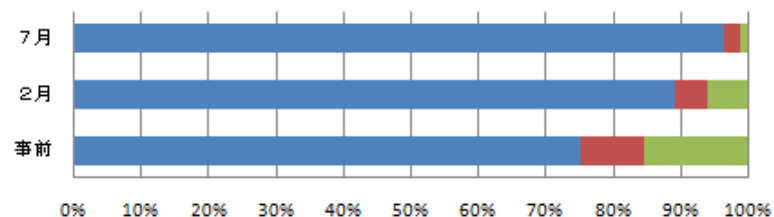
アンケート結果①(放射線の性質について)

質問「ア:放射線は、世界中どこにでもある。」



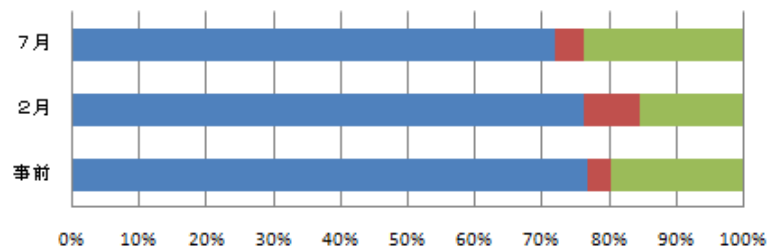
	事前	2月	7月
■正しい認識	66%	94%	83%
■誤った認識	15%	1%	6%
■わからない	19%	5%	11%

質問「イ:放射線は、原子力発電所の事故の前には、私たちの身の回りに存在していなかった。」



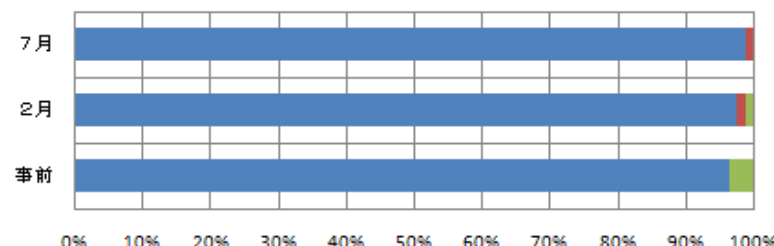
	事前	2月	7月
■正しい認識	74%	89%	97%
■誤った認識	9%	5%	2%
■わからない	15%	6%	1%

質問「ウ:人が放射線をあびると、放射線を出す能力をもってしまう。」



	事前	2月	7月
■正しい認識	77%	76%	72%
■誤った認識	3%	8%	4%
■わからない	20%	15%	24%

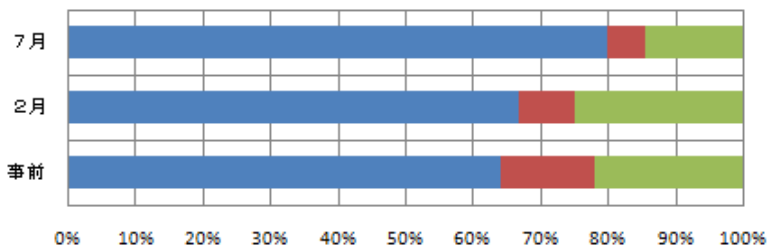
質問「エ:放射線は、人の体に害を与えるときがある。」



	事前	2月	7月
■正しい認識	97%	98%	99%
■誤った認識	0%	1%	1%
■わからない	3%	1%	0%

アンケート結果②(放射線の性質について)

質問「オ:放射線は、病気を治すことなどに利用されている。」



	事前	2月	7月
■正しい認識	64%	67%	80%
■誤った認識	14%	8%	6%
■わからない	22%	25%	15%

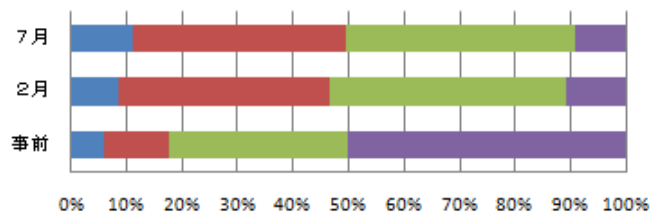
アンケート「ア～オ」について

ア:放射線は世界中のどこにでもある。

ウ:人が放射線をあびると、放射線を出す能力をもってしまう。

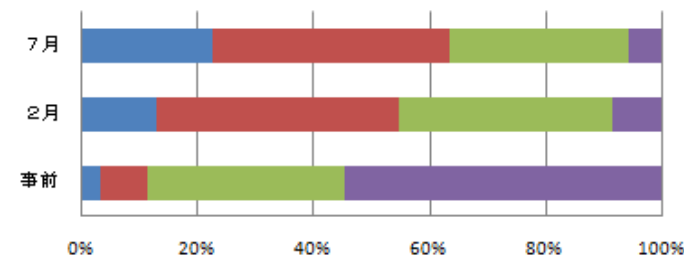
この2項目について、正しい認識にあまり変化がない。

質問「カ:放射線、放射性物質、放射能の違いを説明できますか。」



	事前	2月	7月
■説明できる	6%	8%	11%
■自信はないが説明できる	12%	38%	38%
■あまり説明できそうにない	33%	43%	42%
■説明できない	50%	11%	9%

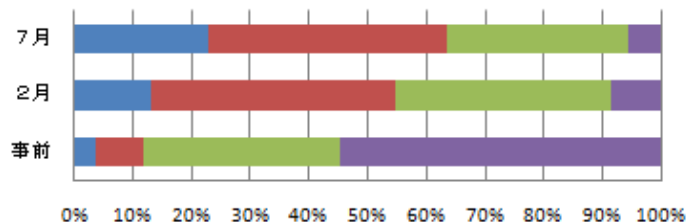
質問「キ:放射線の種類や性質について説明できますか。」



	事前	2月	7月
■説明できる	3%	13%	22%
■自信はないが説明できる	8%	42%	40%
■あまり説明できそうにない	34%	37%	30%

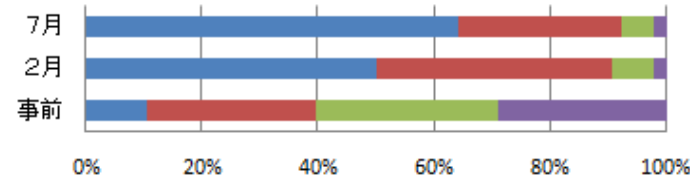
アンケート結果③(放射線の性質について)

質問「ク:除染の目的を説明できますか。」



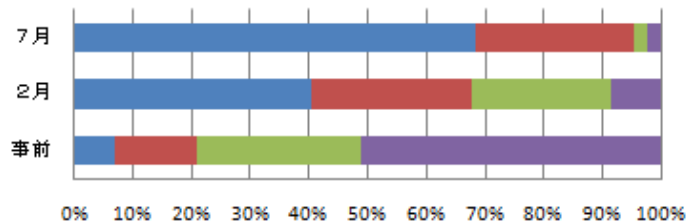
	事前	2月	7月
■説明できる	3%	13%	22%
■自信はないが説明できる	8%	42%	40%
■あまり説明できそうにない	34%	37%	30%
■説明できない	55%	8%	6%

質問「ケ:放射線量が多いとき、放射線から身を守る方法を説明できますか。」



	事前	2月	7月
■説明できる	10%	50%	64%
■自信はないが説明できる	29%	40%	28%
■あまり説明できそうにない	31%	7%	6%
■説明できない	29%	2%	2%

質問「コ:内部被ばくと外部被ばくの違いを説明できますか。」



	事前	2月	7月
■説明できる	7%	40%	69%
■自信はないが説明できる	14%	27%	27%
■あまり説明できそうにない	28%	24%	2%
■説明できない	51%	8%	2%

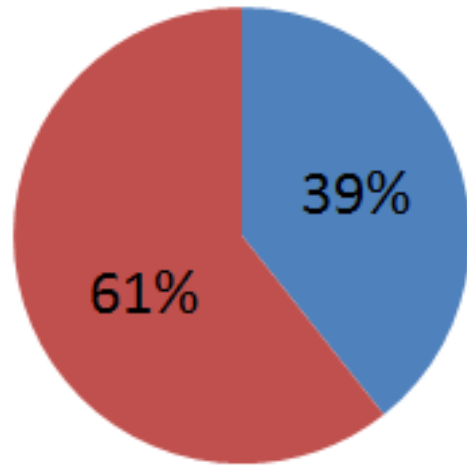
アンケート「カ～コ」について

どの項目も放射線に関して説明できると自信を高めている。



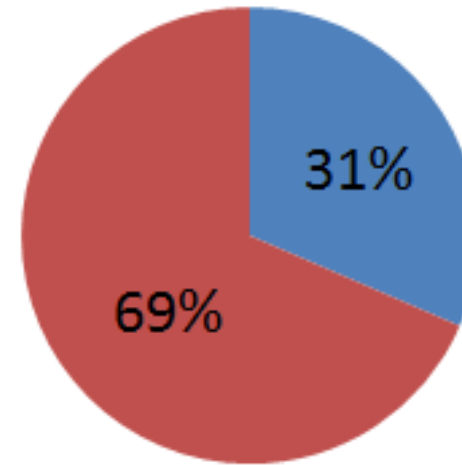
アンケート結果④(食について)

どちらの野菜を選びますか？(n=89)



■福島県産 ■東北の他県産

どちらのジャガイモを選びますか？(n=89)



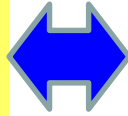
■芽止めジャガイモ ■そのまま

○放射線をあびていないジャガイモ
○原発から遠い地域の野菜
を選ぶ傾向が高い。

本研究のまとめ

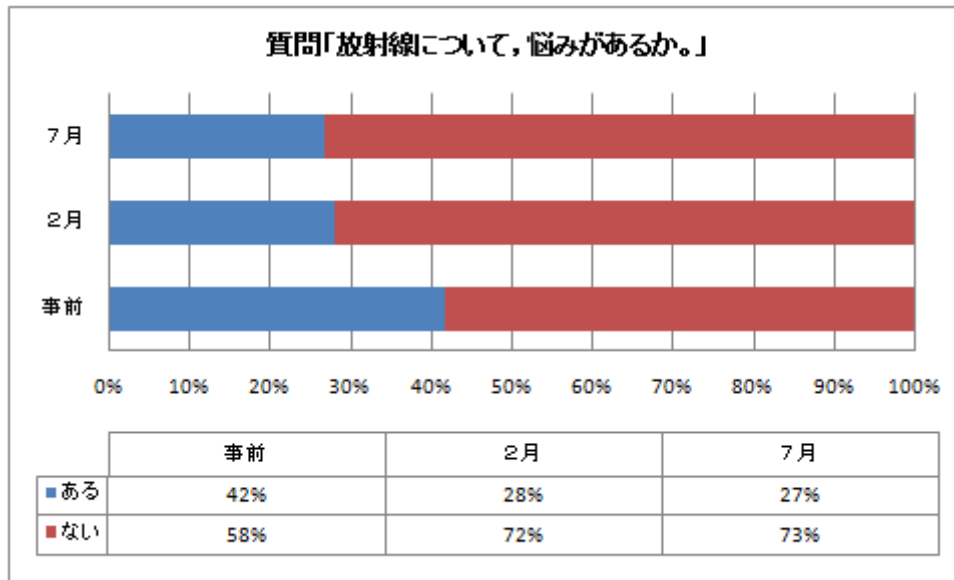
成果としては

- 放射線に関する知識が身についた。
- 放射線に対する正しい認識が高まった。



課題としては

- 問題意識が低い(他人事に感じている)
- 放射線に対する不安を完全に排除することは難しい。



- 放射線のメリットとデメリットについて、多面的に捉えることができる機会を増やしていく必要がある。
- 特に、実生活の中で放射線が関わっている場面を多く知り、生徒自身に放射線が身近な存在であることに関する必要がある。



福島震災復興を入り口としたエネルギー教育



育てたい生徒の姿

中学生サミット Kyoyo Call 2019
「みんなでやりましょう！私たちの手で、私たちの授業！！」

被災地が抱える課題



主体的な課題解決

育てたい生徒の姿

中学生サミット Kyoyo Call 2019
「みんなでやりましょう！私たちの手で、私たちの授業！！」

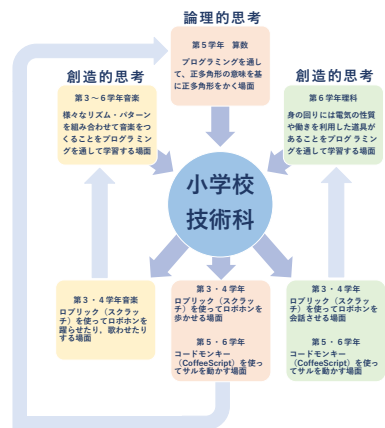
主体的な課題解決

被災地が抱える課題

- ・自ら学び，自ら考え，
自律的に行動できる生徒。
- ・様々な考えや文化を受け入れ，
他と共生し，協調して行動できる生徒。
- ・自他の個性を生かしつつ，
目的を達成できるよう自ら実践できる生徒。

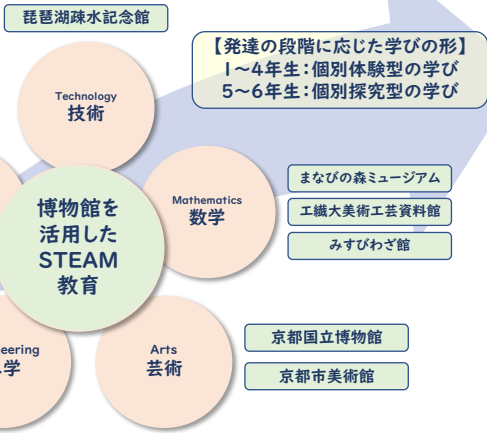


義務教育9年間+高等学校3年間で育てる思考力・判断力・表現力～教科横断的な取組みのイメージ～



小学校段階

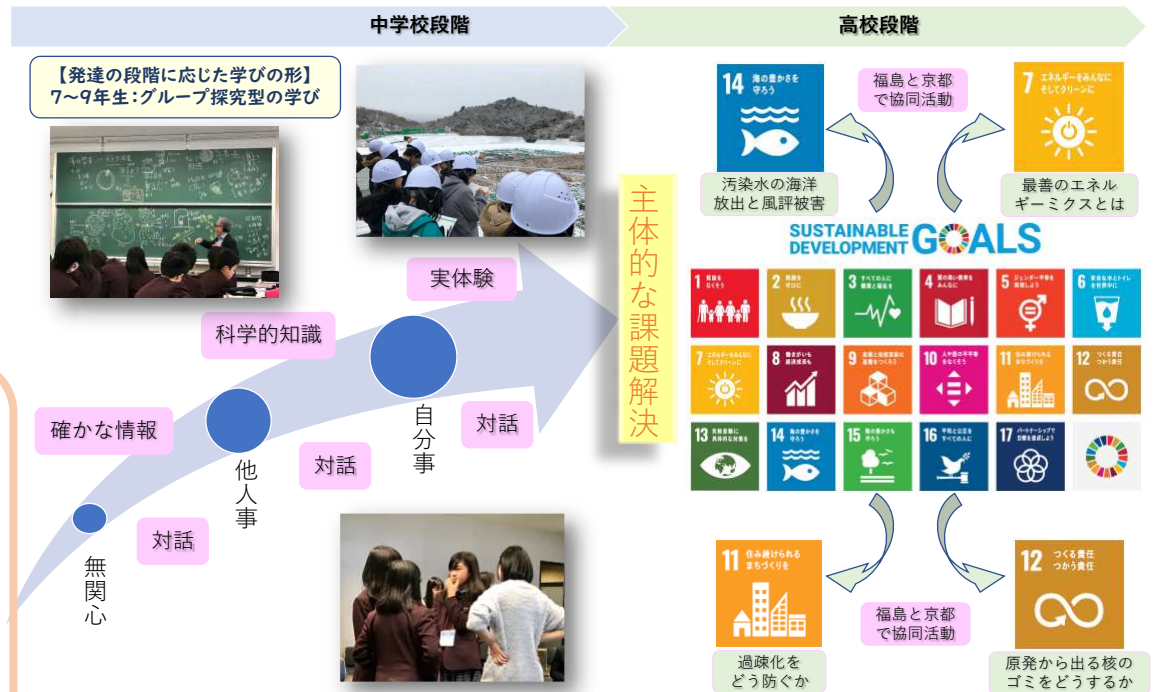
【重視する視点】
体験・経験によって得られる直感
その直感によって生まれるひらめき
そこに科学的な視点を加えていく



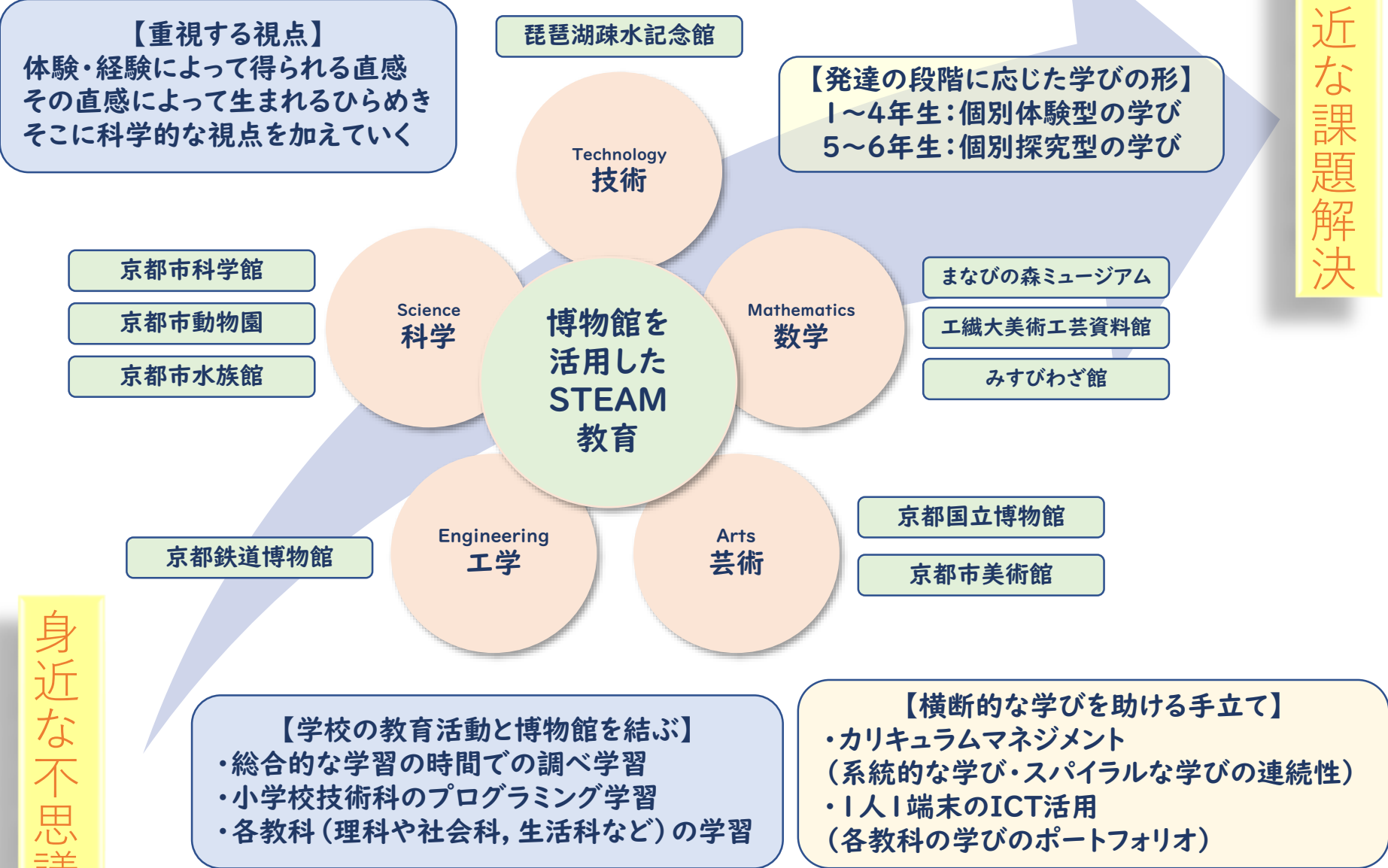
身近な不思議

【学校の教育活動と博物館を結ぶ】
・総合的な学習の時間での調べ学習
・小学校技術科のプログラミング学習
・各教科（理科や社会科、生活科など）の学習

被災地が抱える課題
京都から広がる世界
京都とつながる世界
身近な課題解決



小学校段階



第6学年テーマ 「SDGsで京都の町を見つめ直そう」



グループ (3~4人) でSDGsのゴールについて調べ、まとめる。(国語科・社会科の単元とつなげて)

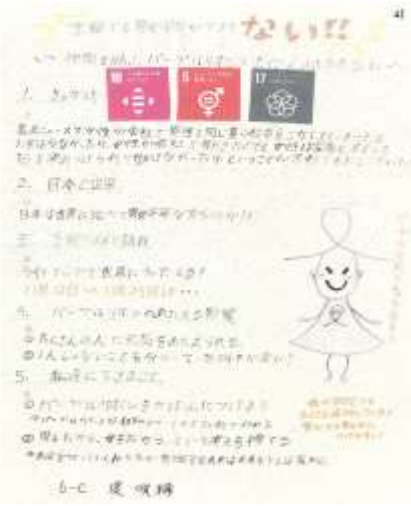


・学年担当教員による、講義。3学級を4人の教員でローテーションを組み講義をしていく。
・各学級で、SDGsについて「広げて考える」「つなげて考える」をキーワードに対話を重ね、視点を広げていく。



未来の京都を
創るのは
今の私達です

未来の自分に
誇れる
自分でいましょう



第7学年テーマ「エネルギー」

- 勉強会
①原子力(サイクル含)政策・・・東北大学 量子エネルギー工学専攻 教授 高橋信 先生
③放射線の性質, 地層処分の方法: NUMO広報グループ
④原子力と宇宙: 東京工業大学 助教 澤田哲生 先生"

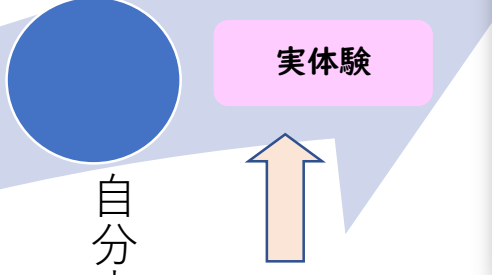


対話

理科【論理的思考力】
物質の姿・大地の変化



科学的知識



実体験

自分事

主体的な課題解決

総合的な学習
個別の探究活動

生徒

対話



対外的な発信
⑦校内ポスターセッション
⑧中学生サミット

生徒

確かな情報

他人事

現地視察
⑤福島県被災地視察
⑥原燃施設見学

今日的な課題
「エネルギー」

無関心

勉強会
②地域振興(六ヶ所村)・・・未来塾: 伊藤夏子氏ほか

社会科【批判的思考力】
各地の人々の生活と環境
家庭科【創造的思考力】
豊かな生活のために

対話

対話

生徒



総合的な学習
福島県の新聞を使った
ポスターづくり

国語科【論理的思考力】
論点を捉えて

生徒

中学校段階

高校段階

【発達の段階に応じた学びの形】
7~9年生:グループ探究型の学び



実体験

科学的知識

確かな情報

対話

他人事

対話

自分事

対話

無関心

対話



被災地が抱える課題

主体的な課題解決



汚染水の海洋放出と風評被害

福島と京都で協同活動



最善のエネルギーミクスとは

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



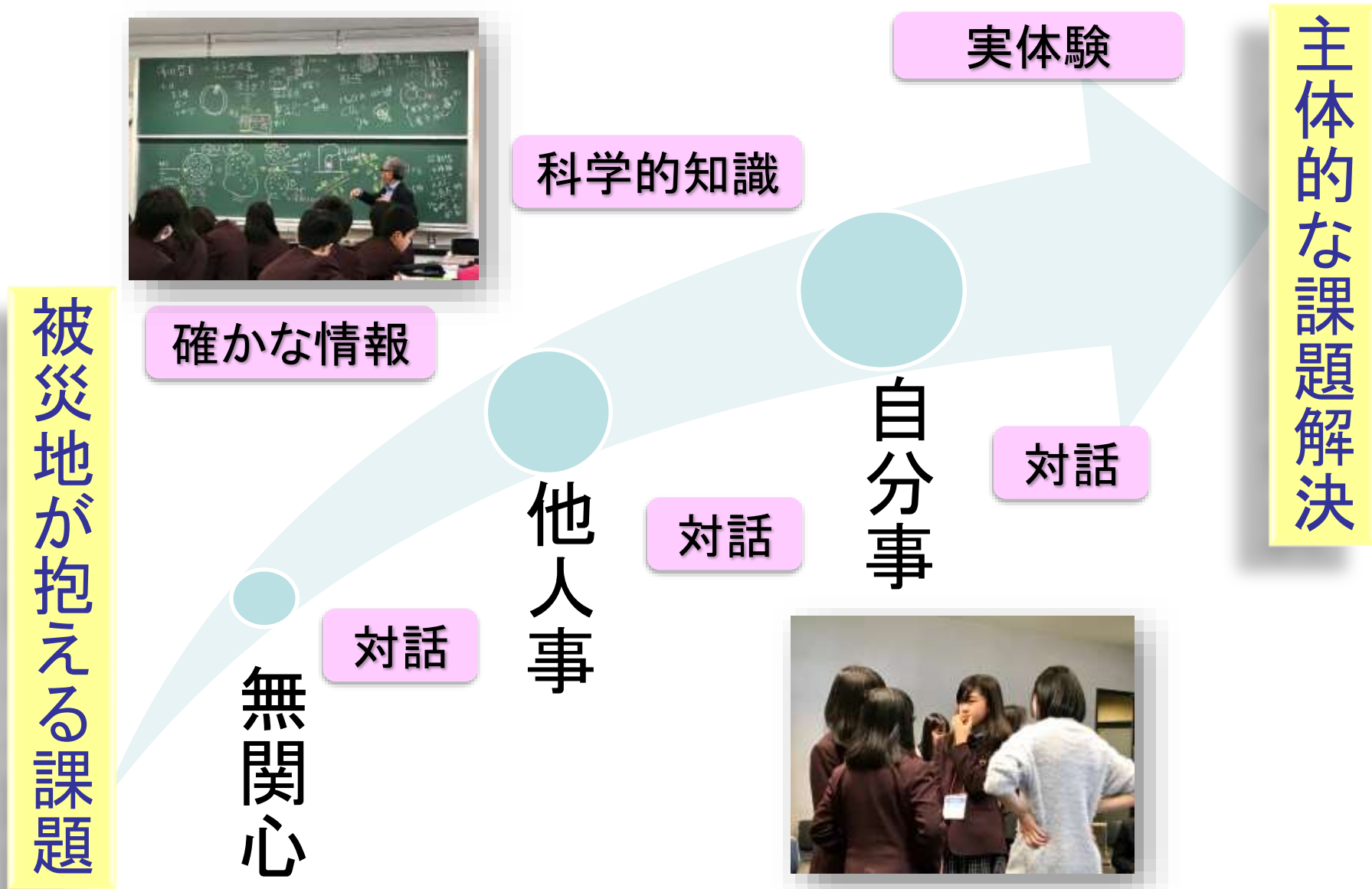
過疎化をどう防ぐか

福島と京都で協同活動



原発から出る核のゴミをどうするか

資質・能力を総合的に活かす場の設定 福島震災復興を「無関心」から「自分事」へ



これまでの主な取り組みの内容(8・9年生)

1年目

福島の震災前
から今日まで

確かな情報

科学的知識

福島震災復興
を考える

研究協議会で授業と
ポスターセッション

特別授業
岡田(福島大)

対話

福島県安達高
生徒間交流

サイエンスアゴラで
共同発表(東京)

代表生徒福島訪問
(1泊2日・2月)

2年目

福島の震災前
から今日まで

確かな情報

科学的知識

日本のエネル
ギーを考える

研究協議会で授業と
ポスターセッション

特別授業
澤田(東工大)
岡田(福島大)

対話

福島県安達高
生徒間交流

JST行事(京都)と
サミット(青森)参加

代表生徒福島訪問
(2泊3日・2月)

これまでの主な取り組みの内容(8・9年生)

1年目

福島の震災前
から今日まで

確かな情報

科学的知識

福島震災復興
を考える

研究協議会で授業と
ポスターセッション

特別授業
岡田(福島大)

対話

福島県安達高
生徒間交流

サイエンスアゴラで
共同発表(東京)

代表生徒福島訪問
(1泊2日・2月)



これまでの主な取り組みの内容(8・9年生)



2年目

福島の震災前
から今日まで

確かな情報

科学的知識

日本のエネル
ギーを考える

研究協議会で授業と
ポスターセッション

特別授業
澤田(東工大)
岡田(福島大)

対話

福島県安達高
生徒間交流

JST行事(京都)と
サミット(青森)参加

代表生徒福島訪問
(2泊3日・2月)

これまでの主な取り組みの内容(8・9年生)



2年目

福島の震災前
から今日まで

確かな情報

科学的知識

日本のエネル
ギーを考える

研究協議会で授業と
ポスターセッション

特別授業
澤田(東工大)
岡田(福島大)

対話

福島県安達高
生徒間交流

JST行事(京都)と
サミット(青森)参加

代表生徒福島訪問
(2泊3日・2月)

福島震災復興に対する生徒の考え

福島の食べ物などについてたくさん知れたし、福島の食べ物も安全だということが分かりました。
また政府は原発の事故についても、復興を手助けしていかねければいけないと思います。私たちも、福島について知る必要があるし、考えていかなければいけないと思いました。
ハリゲードも最後に見せていただいた絵もすごく印象的で福島の住民の方の気持ちを感しました。

私は夏に京大に行かせていただいたりして、これは福島の原発事故について学んできました。しかし、今日授業を受けて実際に福島に住んでおられる方の話を聞くと、改めて私達には想像できなかった悲しい事実があることを知りました。家前に設置されたハリゲードの写真や校庭に埋められた大量の汚染物質を見た時ほど衝撃を受けました。特に想像を絶する量の汚染物質の処理について、貯蔵施設や除染作業の11年を要することなどの難しい問題に直面していることを知りました。私は「復興」とは、被災地が元の状態に戻り、人が戻ってきて、文化も風化させずに守りぬいて、経済が安定して初めて達成できるものだと思っています。だから福島を復興させるためにはこの事故について、悲しい事実も、福島の方の思いも、今より42.2の対策も全て、語り継いでいくべきです。私は実際に福島に行かせていただけるので、悲しい事実からも目を背けずにはっきりと学んできたんです。また、今回あなた「風評」被害について、自分たちの正直な意見もふまえてしっかりと交流しようと思いをしました。

- 放射能物質がどれくらいあるかと思っていたよりもけるかに97<2、驚いた。
- 大震災、大津波、原子力災害、風評が東日本大震災ではあった。
→ 風評被害による福島の方は苦しんだことから、被害は自然災害によるものだけではないことを知った。
- 谷田河村近頃は放射能物質の量を減らすことを禁止させるほどの量が99%あった。
→ 放射能量が減らなくて、今もまだ汚染されていることを知った。
「テレビ」で放射線の量を放送している。
→ 京都にはいいところから、驚いた。福島の人たちは放射線を身近に感じて生活している。
- 食べ物に放射能物質の量をたくさん時間をかけて、チェックしていた。
→ 風評被害の影響でたくさんの方が苦労していることを知って、自分にもできることがあるか、と思った。
- 福島の人たちは復興のために様々なことをして、努力しているのに、自分は福島のために何もできていないことを実感した。福島でおこなったことは、福島の人だけで解決するのは難しく、自分たちにもできることは何か、調べたりしていく必要がある。



京都発！福島震災復興プロジェクト

福島訪問の行程

<1日目>

- 7:00 京都駅集合
- 7:18 京都発 - (新幹線) - 東京 - (在来線・特急) - いわき
のぞみ208号(京都7:18発-東京9:33着) → ひたち7号(東京9:44発-いわき12:07着)
- 12:07 いわき着。昼食 ①
※ 駅周辺で食事をします。
- 12:50 安達副交生徒と合流
- 13:00 いわき駅 発。国道6号線を北上(福島県の貸し切りバスに乗車)
※ いわき市～広野町～柳井町～富岡町～大塚町～双葉町～浪江町～南相馬市～飯沼村～二本松市
の津波の被害や原発事故の被害と復興状況を視察がはじまります。
※ 安達高校の生徒との交流も積極的にしましょう。
- 14:00 特定廃棄物埋立処分施設(柳井町) 着
(旧フタシアエコテッククリーンセンター) 入口駐車場にバス駐車
※ 30分程度見学
- 14:30 特定廃棄物埋立処分施設(柳井町) 発
- 14:40 リフルン福島(富岡町) 着
※ 30分程度見学
- 15:10 リフルン福島 発
- 15:15 双葉警察署駐車場 着
双葉署北側町内東児童公園内の避難所兼津波被災のバトカー視察
※ 視察約10分
- 15:25 双葉警察署駐車場 発
- 15:35 富岡町夜ノ森地区ゲート
(夜の森つつみ公園付近) 着
※ 車外で10分ほど付近を視察、調査
- 15:45 富岡町夜ノ森地区ゲート
(夜の森つつみ公園付近) 発
- 16:10 浪江町富戸地区付近 着
(浪江町富大平山公園駐車場)
※ 車外で15分ほど付近を視察、調査
※ 浪江町立大平山公園
・ 以前の場所は津波で流失。現在の高台に新しく作られた。
・ 2017.3.11 浪江町東日本大震災慰霊堂碑建立
・ トイレあり
- 16:25 浪江町富戸地区付近 発
(浪江町立大平山公園駐車場)
- 16:35 浪江町役場付近 着
(浪江町役場駐車場又はサンシャインなみえ駐車場)
※ 車外で20分ほど付近を視察、調査
※ センター隣行はここまで。
※ 役場駐車場で「まち・なみ・まるしよ・まるしよの日」を開催中のため注意。
- 16:50 浪江町役場付近 発
(浪江町役場駐車場又はサンシャインなみえ駐車場)
- 18:00 福島県男女共生センター前(二本松市)
※ チェックイン
※ 安達高校生徒も一緒に宿泊します。
【福島県男女共生センター】〒964-0904 福島県二本松市御内一丁目195-1 TEL: (0243) 23-8301
- 18:30 夕食 約1,000円。月の花(二本松市竹田)にて郷土料理をいただきます。
- 21:00 本日の振り返りと翌日の打ち合わせ
- 22:00 消灯



そったくん

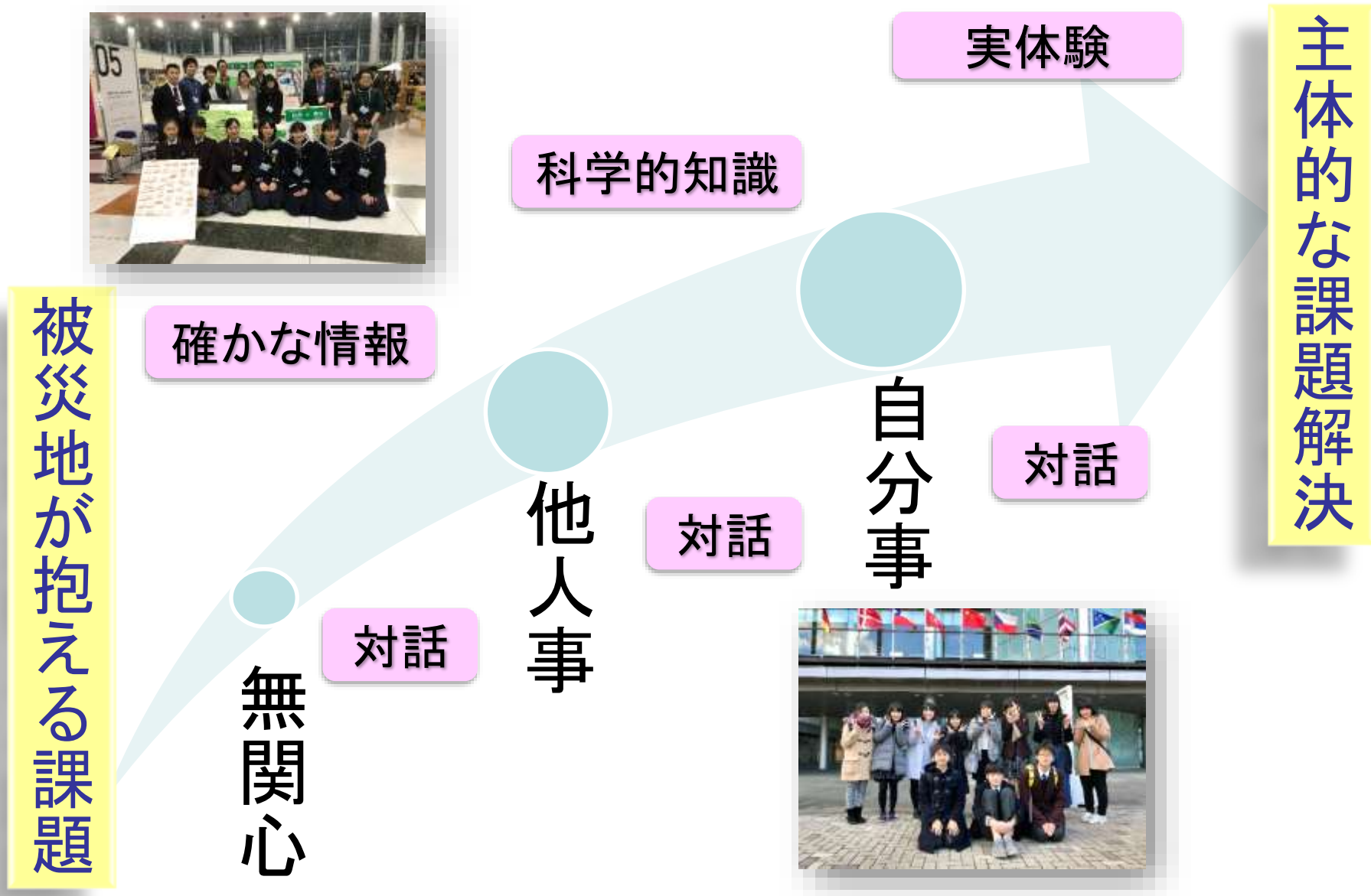
京都発！福島震災復興プロジェクト

<2日目>

- 7:00 起床
朝食 8070円
- 8:00 移動
- 9:00 コミュタン福島訪問
- 8:30 福島県男女共生センター 発
※ 高尾道路使用 (二本松IC～船引三春IC)
- 9:10 コミュタン福島 着
- ※ 展示室を視察して学んだり、放射線や福島原発事故について研究員の佐々木清先生から学んだりして、福島復興について深く学びます。
- 【コミュタン福島】〒963-4700 福島県田村郡三春町深津10番2号 TEL: (0247) 61-0721
- ※ 午前のプログラム
- ① 9:10～10:30 コミュタン福島展示見学、体験研修（放射線測定体験）
- ・参加シスター
 - ・原発機種の説明、質疑
 - ・福島の環境回復のいまの見学、質疑
 - ・3、11クロック
 - ・福島県の再生可能エネルギー取り組みの紹介
 - ・第一原発の作業員や現在の状況
 - ・食品検査についての展示
 - ・避難者数の展示
 - ・放射線クオの見学、質疑
 - ・農畜・スノーチェーンによる自然放射線の解説
 - ・放射線マップによる福島の空間放射線量の状況
 - ・除染についての展示解説
 - ・環境創造シスターにて「放射線の話」、「福島ルネッサンス」視聴
 - ・体験研修（身の回りの放射線測定）
- ② 10:50～11:00 (休憩)
- ③ 11:00～12:00 講義「放射線による健康影響について」(B2)
-講師：北 実 助教（鳥取大学 研究推進機構研究基盤センター）
- 12:00～13:00 昼食 801,000円
- ※ 午後のプログラム
- ① 13:00～14:00 語り部口演
・口演者：高村 美春氏（原発震災を語り継ぐ会）
- ② 14:00～15:00 ワークショップ「福島の食・物に対する風評被害」
- ③ 15:00～17:00 交流会
人や住む場所によって異なる放射線や福島の食・物に対するイメージの違いを話し合い、風評被害について考える。
- 17:00 コミュタン福島 発
- ※ 高尾道路使用 (二本松IC～船引三春IC)
- 17:40 福島県男女共生センター 着
- ※ ここで安達高校生とは再会です。
- 18:00 夕食 ①、自由時間
- ※ 福島県の自給グルメ「浪江焼きそば」をいただきます。
- ※ 交流初代の安達高校OG（大学生）と一緒に食事をしながら交流を深めます。
- 21:00 本日の振り返りと翌日の打ち合わせ
- 22:00 消灯



福島の震災復興を「無関心」から「自分事」へ



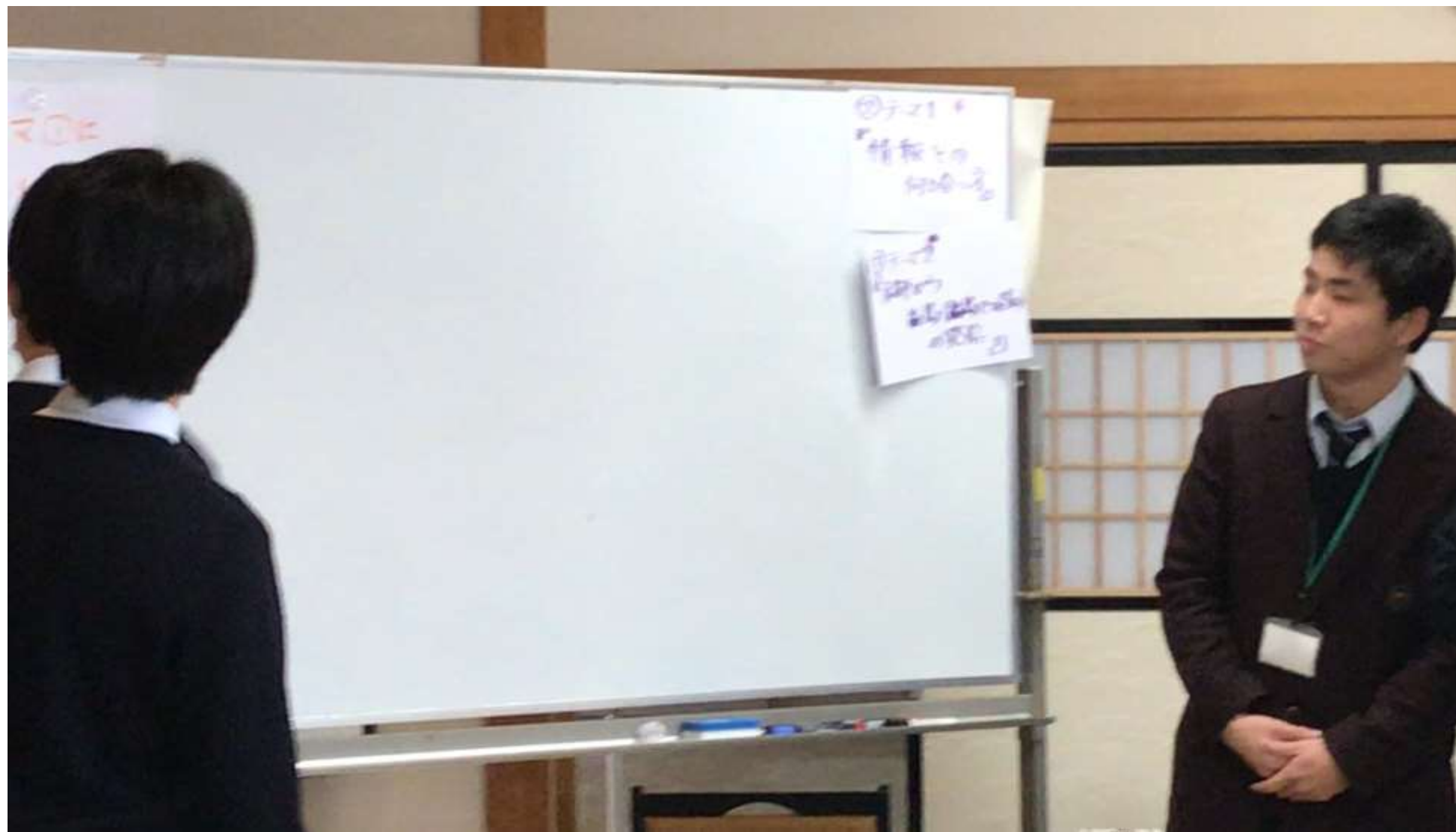
福島の震災復興を「無関心」から「自分事」へ



福島の震災復興を「無関心」から「自分事」へ



被災地が抱える課題を京都の身近な課題へ



自ら学んだことを伝えたい・・・生徒企画の報告会



福島(浜通り)の昔と今





放射線のリスクとベネフィット～福島復興11年の変遷～



令和5年8月5日(土)

京都教育大学

附属京都小中学校・教頭

大学院連合教職実践研究科・准教授

野ヶ山 康弘

